

ISSN 1880-1412

千葉県立中央博物館分館海の博物館ニュースレター

いそっぴ通信 No.9

(平成 19 年度版)

The Newsletter of the Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba
No.9 (1 April 2007 – 31 March 2008)



千葉県立中央博物館 分館海の博物館

はじめに

千葉県立中央博物館分館海の博物館は平成 11 年 3 月の開館から 9 年を経過し、ついに 10 年目に突入しました。9 年間という歲月の中で、細かな活動内容等には様々な面で変化がありましたが、海の博物館の活動は、常に「本物の海の自然に直接触れて学ぶ」を基本方針として、学術的な貢献を目指した資料収集・調査研究活動と、それを基礎に来館者の皆様に海の自然、特に海の生きものについてより新しく、興味深いことを知ったり体験していただく展示・教育普及活動の 2 つを、車の両輪として行ってきました。これらの活動は、どちらが欠けても自然誌博物館の役割を十分に果たしえない大切な活動です。

本誌「いそび通信 No.9」は海の博物館の平成 19 年度の活動の成果をまとめたものです、平成 19 年度、海の博物館は十分な活動をなしたかどうか、この冊子でご確認いただき、博物館をより良い方向へと発展させるための、忌憚のないご意見、ご批判をいただけましたら幸いです。

目次

平成 19 年度のトピックス	1
海の博物館にダイオウイカがやってきた！	1
平成 19 年度マリンサイエンスギャラリー	
「オスメスの不思議－海の動物の世界から－」	2
千葉県立安房博物館・千葉県立中央博物館分館海の博物館 合同巡回企画	
「くろしおと漁撈文化」	4
特別公開講座「海と地球温暖化のつながりを知ろう」	5
より良い博物館を目指して－博物館評価制度の導入－	5
平成 19 年度の活動記録	6
1. 展示活動	6
2. 教育普及活動	10
3. 資料収集活動	16
4. 調査研究活動	18
5. 事務室から	22
平成 20 年度の行事案内	24
職員から	

表紙の解説：シオマネキ *Uca arcuata* (上：オス、下：メス)

干潟にくらすカニの一種で、オスの片方のハサミ脚がとて大きくになります。マリンサイエンスギャラリー「オスメスの不思議－海の動物の世界から－」では、海の動物の中でもオスとメスで形や大きさの異なる種類を紹介しました。

平成 19 年度のトピックス

海の博物館にダイオウイカがやってきた！



長門市油谷の漁港に漂着したダイオウイカ（写真提供：萩博物館）



博物館に運び込まれたダイオウイカ標本を見学する清海小学校の児童たち



ダイオウイカの特徴についての解説を聞く児童たち

ダイオウイカは世界最大級の無脊椎動物で、日本産のものでは外套長が最大 2m、触腕を含めた大きさは 6.5m になります。一般にマッコウクジラと格闘する様子などでお馴染みの大型のイカです。このダイオウイカの標本が、海の博物館の収蔵資料に仲間入りしました。このダイオウイカは、平成 19 年 1 月 13 日に、山口県長門市油谷の川尻漁港に漂着した死亡個体で、腕を入れた全長が 2.7m ありました。ただし、一番長い腕（触腕）が無くなってしまっていたので、これがあつたら、おそらく 5m に達していたと予想されます。このイカは、地元関係機関を経由し、萩市の萩博物館によって冷凍保存されていたのですが、標本が大きすぎて収蔵が困難であること、ほぼ同時期に漂着したやや小型のダイオウイカが入手できたことなどもあり、大型標本の収蔵施設がある当館に譲渡の打診があつたものです。

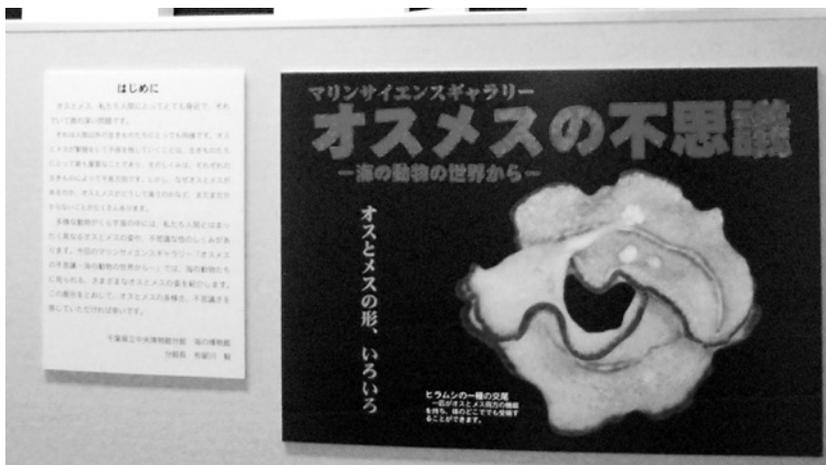
ダイオウイカ標本は、出荷される他の水産物と共に築地に冷凍輸送され、そこから当館職員の手によって、5 月 25 日に海の博物館に運び込まれました。当日は、地元の勝浦市立清海小学校の児童にお披露目をした後、標本は冷凍庫で仮収蔵となりました。その後、薬品による標本作製の準備を進め、7 月 16 日（海の日）に、解凍作業を兼ねて展示室ロビーの外で、ダイオウイカの特別一般公開を行いました。この一般公開では、職員による解説とダイオウイカに直接触れる体験会を開きましたが、延べ 118 名の方々にご参加いただきました。

標本は現在、博物館の収蔵資料として薬品に浸かった状態で保存されていますが、残念ながら、まだ一般公開の目処はたつていません。

平成 19 年度マリンサイエンスギャラリー 「オスメスの不思議—海の世界から—」

平成 20 年 2 月 23 日 (土) ~ 5 月 6 日 (火・休)

動物にはオスとメスがいます。あたり前のことのようにですが、よく考えてみると不思議なことがたくさんあります。なぜオスとメスがあって、体のつくりが違うのでしょうか。私たちヒトの場合、男性は少し大きくて、ヒゲが生えたり、女性は胸が膨らむなどの外見上の体の違いがあります。他の動物ではどうなっているのでしょうか？ とても多様な動物たちがくらす海の世界をのぞいてみると、ヒトとは全く異なるオスとメスの形が見えてきます。



平成 19 年度マリンサイエンスギャラリー「オスメスの不思議—海の世界から—」では、海の動物たちのさまざまなオスとメスの姿を紹介し、オスとメスの不思議について考えてみました。

色々なオスとメス

ウニやナマコや貝のなかまや、アジなどの魚のように、外見に違いが無く、ぱっと見ただけではオスとメスの区別が付かない生きものもたくさんいます。反対に、オスとメスで外見に違いがある生きものもいます。例えば、シオマネキというカニはオスの片方のハサミがとても大きくなりますし、キタゾウアザラシではオスの体重はメスの 4 倍にもなり、顔つきも全く異なります。かと思えば、ミョウガガイのように大きなメスの体の中に、小さなオスがくっついてくらしているような場合もあります。標本や写真などで色々なオスとメスを紹介し、なぜオスとメスに違いがあるのか考察しました。



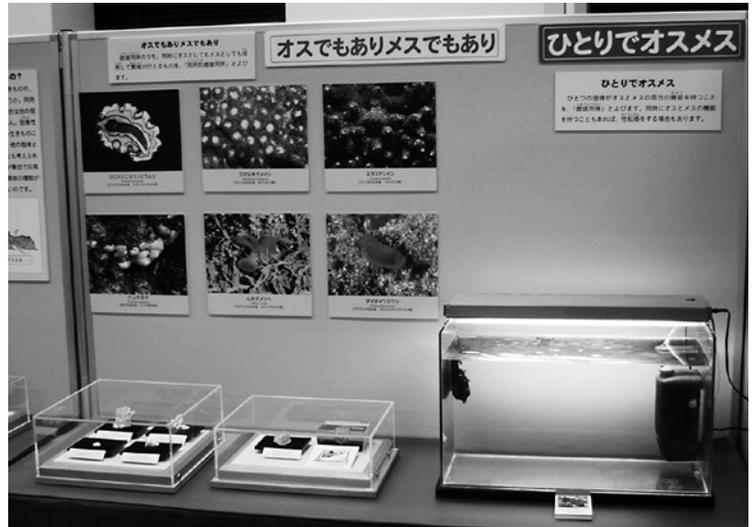
食卓のオスメス

食卓にのぼる海の動物の中には、オスとメスを簡単に見分けることができるものもあります。サザエ、スルメイカ、イセエビやカニのなかまのオスとメスの見分け方を標本や写真を使い、クイズ形式で紹介しました。食べる前にちょっと観察してみると面白い展示だと好評でした。

ひとりでオスメス

一個体がオスでもメスでもある生きものもいます。フジツボやウミウシのなかまなどは、オスとメス

の機能をあわせ持っています。このような生きものは同時的雌雄同体とよばれます。また、「甘エビ」としておなじみのタラバエビのなかまやクマノミのなかまなどは、一生の間にオスからメスに性転換をする生きものです。逆に、ベラのなかまのようにメスからオスに性転換をする生きものもいます。水槽や標本などで、オスでもありメスでもあるさまざまな生きものを紹介しました。



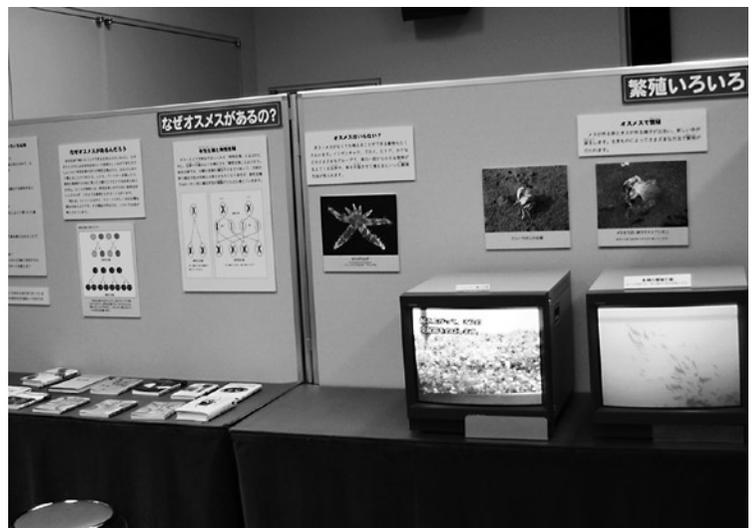
温度で決まるオスメス

オスとメスが遺伝的に決まっているのではなく、環境によって決まる生きものもいます。ウミガメのなかまなどは、卵が経験する温度によってオスになるかメスになるかが決まります。



繁殖いろいろ

色々な生きものの繁殖行動を映像や写真で紹介しました。複雑なオスとメスの仕組みがあるのは、繁殖して子供を作り子孫を残していくためでしょう。しかし、そのために本当にオスとメスが必要なのでしょうか？ 実は、分裂して増えるヤツデヒトデのように、オスとメスが無くても増えることができる、無性生殖をする生きものもいるのです。



なぜオスとメスがあるの？

複雑で面倒なオスとメスの仕組みよりも、無性生殖の方が簡単にたくさん増えることができるように思えます。ところが実際には無性生殖しか行わない動物はほとんどおらず、オスとメスがいます。増えるということ以外に、オスとメスの仕組みが必要な理由があるようです。その理由が何なのか、色々な説がありますが、誰もが納得する「答え」はまだありません。ここではオスメスの謎について考察し、参考となる図書を紹介しました。

この展示を通して、身近なようでとても奥深いオスメスの不思議を感じていただけましたならば幸いです。

千葉県立安房博物館・千葉県立中央博物館分館海の博物館 合同巡回企画 「くろしおと漁撈文化」

平成 19 年 7 月 14 日 (土) ~ 9 月 2 日 (日)
(平成 18 年 8 月 2 日 ~ 10 月 30 日には、千葉県立安房博物館で開催)

千葉県は、南の海から流れてくる暖かい黒潮の影響を受け、温暖で暮らしやすい土地です。当地では縄文時代から漁労の痕跡が認められ、遺跡から出てくる遺物には、太古の人々も黒潮と係わりを持った生活を営んでいたことを示す資料が含まれています。そして、黒潮と関連した漁業は、現代でも千葉県の重要な産業となっています。海の博物館と千葉県立安房博物館では、各館の専門性を活かし、これらのことについて紹介する展示「くろしおと漁撈文化」を企画しました。この展示は、合同巡回企画として位置付け、平成 18 年度には安房博物館で、平成 19 年度には海の博物館で、それぞれ会期を設けて常設展示とは別に公開しました。

展示は、「くろしお」、「大海原の狩人」、「魚群を追って」の三つのコーナーで構成しました。「くろしお」では、流路や水温、生きもの、陸域への影響など、黒潮の自然誌的側面を図や写真、標本を使って、「大海原の狩人」では、縄文時代の遺跡から出てきた遺物などを使って漁業の始まりや原始の人々の生活と黒潮との係わりを、「魚群を追って」では、実際に使われている漁具を使って現代の黒潮と関連した漁業を、それぞれ紹介しました。また、展示室の最後には、各コーナーと関連した資料（考古資料は再現品、自然誌資料と漁具は実物）を実際に手にとってみられる「体験コーナー」も設けました。展示に使用した資料は、主に安房博物館と海の博物館が所蔵している物でしたが、写真や画像、考古資料、漁具の一部は、千葉県立房総のむら、千葉県立安房水産高等学校、千葉県水産情報通信センター、銚子市教育委員会、市原市教育委員会、南房総市教育委員会、館山市立博物館、富士宮市教育委員会、新勝浦市漁業協同組合、高知大学海洋生物研究教育センターなどから借用しました。

海の博物館での期間中入場者数は、22,240 人でした。会場で行ったアンケートでは、「入場してよかったですか？」の問いに、81%の人が「とても良かった」もしくは「良かった」と回答し、例年の夏休み期間中の企画展示とほぼ同程度の評価が得られました。一方、展示のテーマや内容を問う「おもしろい（興味ある）展示でしたか？、わかりやすい展示でしたか？」の設問には、「面白い、わかりやすい」以上の回答をした人が共に 65%で、残りの人の多くは「普通」と評価していました。こちらは、例年よりも「面白い、わかりやすい」の値が低く、自然誌を専門とする海の博物館の性格上、展示内容が歴史や民族、産業といった人文学に重点を置いたことが、主な原因ではないかと考えています。

なお、平成 18 年度の安房博物館での開催時には、好評につき会期を 1 カ月間延長する措置がとられました。今回、二館で同じ展示を行いながら、それぞれの館で評価が大きく分かれたことは、今後、専門性が異なる館間で、連携事業を行う際の参考として活かして行きたいと考えています。



特別公開講座 「海と地球温暖化のつながりを知ろう」

地球温暖化問題の関わりについて学ぶ、計4回からなる特別公開講座を開催しました。この講座は、ボランティアで講師役をかって出て下さった、大槻晃博士（東京水産大学名誉教授）のご協力の下、勝浦市・勝浦市教育委員会と共催し開催したものです。各回合計45名のみなさまにご参加いただきました。

第1回（10月13日）

会場：勝浦市役所会議室

「今、地球温暖化によってどのような異変が世界各地で起こっているか」

第2回（10月20日）

会場：勝浦市役所会議室

「我々が住む地球上の気温は、どのように決まっているか」

第3回（11月10日）

会場：勝浦市役所会議室

「地球上での熱の移動における海の影響」

第4回（11月17日） 会場：海の博物館

「温暖化防止のためになにができるか」

*第4回は、当館職員による博物館の果たす役割の講義ならびに館内見学も行いました。

「G20 5/17 2008」～気候変動と持続可能な社会への国際協力の歴史～
平成19年特別公開講座
海と地球温暖化のつながりを知ろう

近年、地球温暖化によって生じる環境変動が、大きな社会問題として認識されつつあります。この温暖化の問題に、実は海が大きな影響を及ぼすことをご存じでしょうか？ 今回の講座では、温暖化によって引き起こされるさまざまな現象、温暖化が生じる原因、温暖化を防止するために私たちにできること、などについて、海とのつながりをおしてわかりやすく紹介します。

講師：大槻 晃 氏 東京水産大学（現東京海洋大学）名誉教授

期 日： 第1回 10月13日（土）13:00～14:30
第2回 10月20日（土）13:00～14:30
第3回 11月17日（土）13:00～14:30
第4回 11月24日（土）13:00～15:30

会 場： 第1回～3回・・・勝浦市役所4F会議室
第4回・・・千葉県立中央博物館分館海の博物館
（※4回期に準拠・公開館（GAL）で博物館に移動）

対 象： 高校生以上 40名
（事前申し込み・応募多数の場合抽選）

参加費： 無 料

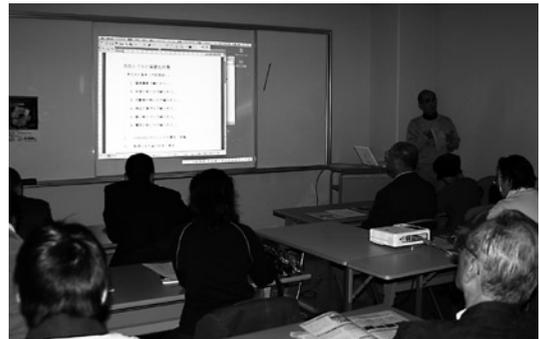
申込方法： はがき、または勝浦市役所環境防災課窓口にて直接申し込み。
※原則として4回連続で参加していただきます。
はがきには、1.氏名、2.住所、3.電話番号を明記して下さい。
【送付先】 勝浦市環境防災課（〒299-8292 勝浦市新町1-1-33）
【送付期限】 平成19年10月18日～11月15日（必着）
【送付結果】 送付終了後、文書で通知します。
※応募した個人情報は、当該講座に関する連絡目的以外には、使用致しません。また、当該講座終了後にもあつちへ送付致しません。

各回の内容（予定）

第1回：「今、地球温暖化によってどのような異変が世界各地で起こっているか」
第2回：「我々が住む地球上の気温は、どのように決まっているか」
第3回：「地球上での熱の移動における海の影響」
第4回：「温暖化防止のためになにができるか」
*第4回は、海の博物館の館内見学も併せて実施します。

主 催： 勝浦市・勝浦市教育委員会
千葉県立中央博物館分館海の博物館

問い合わせ先 勝浦市環境防災課 Tel.0470-73-1211（内線2242）
千葉県立中央博物館分館海の博物館 Tel.0470-76-1133



より良い博物館を目指して — 博物館評価制度の導入 —

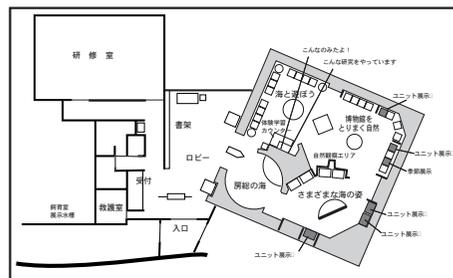
千葉県の県立博物館・美術館では、「各館が自館の活動を検証し、運営の水準を向上させる」ことを目的に、平成14年度より検討を進め、平成17年度の試行を経て、平成18年度より評価制度を導入しました。この評価は、いわば博物館の「成績表」のようなもので、各館が自館の活動を振り返り、その結果を踏まえて問題点を改善し、将来的により良い博物館になって行こうとする取り組みです。

評価は、「自己評価」と「外部評価」の二つからなっています。自己評価は、文字通り職員自らが組織や施設設備、財源にはじまり資料収集、調査研究、展示、参加体験事業、地域作りに至る13項目について、毎年度末に反省を行うものです。一方、外部評価は、展示会や観察会など館を代表する行事を、館外の第三者からなる外部委員に批評してもらうもので、平成19年度は、県立安房博物館と協力して行った展示会「くろしおと漁撈文化」と、参加体験事業である「磯・いそ探検隊」が対象となりました。これら評価の詳細や結果については、「千葉の県立博物館」のホームページ（<http://www.chiba-muse.or.jp/>）で公開する予定になっていますので、そちらをご覧ください（平成20年6月1日現在では、平成18年度の評価結果が公表されています）。

平成 19 年度の活動記録

1. 展示活動

海の博物館では、常設展示のほかマリタイムシネマの上映やマリンサイエンスギャラリー・収蔵資料展の開催などを通して、房総半島をとりまく海の自然を紹介しています。



(1) ユニット展示、季節展示、自然観察エリアの展示交換

ユニット展示

場所	交換前のタイトル	交換後のタイトル	交換日
①	カジメの根元にすむ生きもの	カジメ海中林	平成 20 年 2 月 29 日
②	南の海からやってくる魚たち	館山海底谷	平成 20 年 8 月 20 日
③	サンゴと褐虫藻の共生	種は旅する	平成 20 年 1 月 31 日
④	海辺のアジサイ・山のアジサイ	北限の植物	平成 19 年 7 月 12 日
⑤	巻き貝に生える海藻	他人のそら似	平成 19 年 10 月 30 日
⑤	他人のそら似	小さな小さな貝の世界	平成 20 年 3 月 2 日



新ユニット展示「小さな小さな貝の世界」登場！

「博物館をとりまく自然」コーナーの潮間帯ユニット展示（上の図の⑤の場所）に、「小さな小さな貝の世界」が登場しました。この展示は博物館前の潮だまりの砂の中から採集した微小貝（びしょうがい）を紹介するもので、大きさ 2～3mm の貝類 48 種の標本を虫眼鏡で拡大して観察できます。普通にいるのにあまり知られていない、小さい貝の多様な世界をお楽しみください。

季節展示

「博物館をとりまく自然」のコーナーでは、昆虫の標本や植物の写真などを季節にあわせて交換し、それぞれの季節に実際にみられる生きものを紹介しています。また、それぞれの季節のトピックスも紹介しています。

自然観察エリア

海の博物館では、館正面の磯を「磯の観察エリア」、鵜原理想郷を「理想郷観察エリア」と呼んでおり、それぞれのガイドマップを用意しています。これらのガイドマップには、ミニ図鑑が掲載されていますが、ふたつの自然観察エリアで見られる生きものを網羅できてはおりません。そこで、博物館のスタッフが定期的に観察エリアを調べ、興味深い動物や目につく花などを撮影し、展示室のホワイトボードで随時更新しています。



ツルボ



ホトトギス



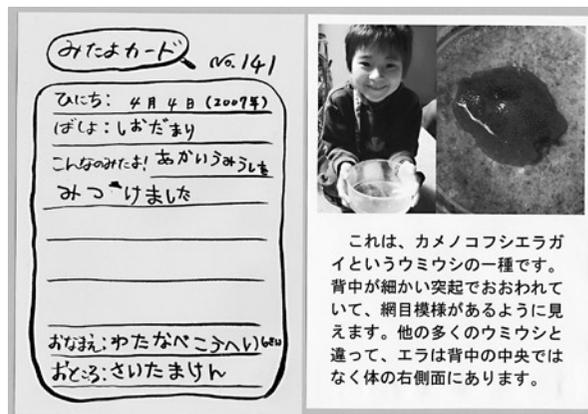
平成 19 年の秋から初冬にかけて、イノシシが摂餌のために土を掘り返した跡が確認されました。

(2) こんなのみたよ！

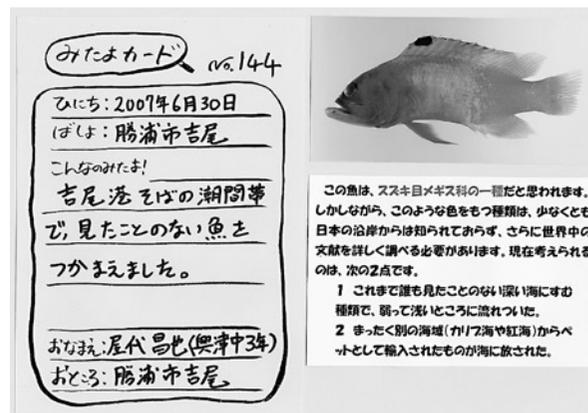
このコーナーは、入館者や地元の方から寄せられた生きものの情報を紹介しているところです。平成19年度は、マンボウやヒレジロマンザイウオ、ソウシカエルアンコウ、新種となる可能性が高いメギス科の一種など、珍しい魚類の話題が集中しました。情報を随時受け付けておりますので、お気軽に博物館スタッフまで声をおかけください。

平成19年度に紹介した話題	
141	カメノコフシエラガイ
142	マンボウ
143	アシダカグモ
144	メギス科の一種
145	カズハゴンドウ
146	オオシオカラトンボ
147	イボシヨウジンガニ
148	ソウシカエルアンコウ
149	ヒレジロマンザイウオ
150	イタチウオ・チョウチヨウウオ他
151	ソコボウズの卵塊

(数字は開館時からの通し番号です)



みたよカード No. 141 カメノコフシエラガイ



みたよカード No. 144 メギス科の一種

(3) こんな研究をやっています

海の博物館には、平成19年度には7名の研究員が所属しており、それぞれが特定の分類群の海洋生物を調査・研究しています。その成果は、各学会で発表され、学術雑誌等に公表されますが、一般にはこれらを目にする機会はなかなかありません。当館では、展示室の一廊でそれぞれの研究テーマや研究成果のエッセンスを紹介しています。

【平成19年度に紹介したテーマと担当者】

- ・温帯の海・シドニーの魚 (川瀬裕司)
- ・動物の交通事故2 (乃一哲久)
- ・他の生きものに付くフジツボの仲間 (村田明久)

海中展望塔・海の資料館・海の博物館 見学記念スタンプ帳の設置

海の博物館の展示室とロビーには、2種類の入館記念スタンプが置いてあり、子どもたちに大人気です。当館と隣接する勝浦海中公園の展望塔と海の資料館（ビジターセンター）にもそれぞれ種類ずつの入館記念スタンプがあり、これらは当館のスタンプと同じ大きさです。これら4つのスタンプを同じ台紙（スタンプ帳）に押すことができれば、子どもたちに一層喜ばれるのではないかと考えました。そこで、勝浦海中公園センターに相談したところ、共通のスタンプ帳を設置することを快諾してくださいました。当館や海中展望塔にお越しの際には、ぜひご利用ください。

海中展望塔 海の資料館
海の博物館
見学記念スタンプ帳



海中展望塔 海の資料館
海の博物館
見学記念スタンプ帳



海の博物館、海中展望塔、ビジターセンターの共通スタンプ帳と設置場所

(4) トピック展示

地元の方が見つけてくださったり、研究員によるフィールド調査で発見された話題性の高い生きものについては、新たに解説パネルなどを添えて体験コーナーカウンター上で展示します。これがトピック展示で、平成19年度は、調査航海で採集された深海性のウニや、房総半島の干潟の無脊椎動物相調査で採集した貝や甲殻類などを展示しました。

平成19年度に紹介した話題
微小貝 (平成18年12月14日～)
ゴバンノアシ (平成18年7月15日～19日)
カメノコフシエラガイ (平成19年4月5日～20日)
シドニーの魚 (平成19年5月1日～11月1日)
サキグロタマツメタ (平成19年5月19日～8月7日)
オキノテヅルモツル (平成19年5月23日)
ヨツバコツブムシ (平成19年7月19日～)
長崎の被爆した瓦 (平成19年8月9日～9月1日)
ギンカクラゲ (平成19年8月14日～19日)
アサガオガイ (平成19年8月26日～)
クマノミ (平成19年9月6日～12日)
豊潮丸サンゴ標本 (平成19年10月8日～)
カエルアンコウ (平成19年12月8日～11日)
ウルトラプンプク (平成19年12月27日～)
平成19年度に提供していただいた資料 (平成20年2月28日～)



小櫃川河口干潟の調査で採集されたサキグロタマツメタ。中国などから移入した種類で、アサリなどを食べてしまうため問題になっています。



夷隅川河口干潟の調査で採集されたヨツバコツブムシ。岩に多数の穴をあけて、大きな岩を崩してしまう原因を作る生きものです。

(5) マリンサイエンスギャラリー

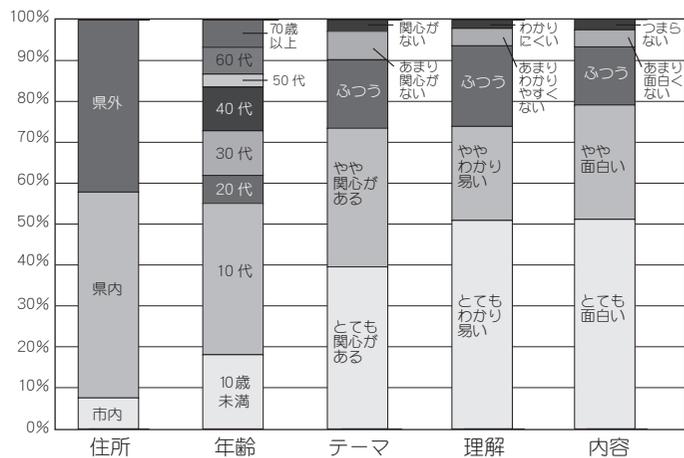
毎年異なったテーマで海の生きもののお話を深く掘り下げて紹介した企画展示で、海の博物館研修室で開催されます。平成19年度の展示の様子は2～3ページをご覧ください。

平成18年度マリンサイエンスギャラリー

「アサクサノリーノリの自然誌」アンケート結果

平成18年度のマリンサイエンスギャラリー「アサクサノリーノリの自然誌」は、私たちになじみの深い食材であるノリ（海苔）の生きものとしての姿を、絶滅の危機に瀕するアサクサノリという種類を主体に紹介しました。詳しい内容は、いそつ通信 No.8 (平成18年度版) に掲載されています。

会期：平成18年12月23日～平成19年4月8日
 期間入場者数：18,728名
 アンケート回答数：236名



(6) 体験学習指導員の活動

●展示室の歩き方

「展示室の歩き方」は、約10分間で展示室をご案内する行事です。当館の展示室は決して広いとは言えませんが、展示を随時入れ替えるなどしており、見どころは十分あります。お伝えしたいことが多く、短い時間の中で何を話しようか迷うほどです。

解説だけでなく、お客様が海での体験談などを語ってくださることもあり、時間延長ということもしばしばあります。

かしこまった雰囲気での解説ではありませんので、お気軽にお声をかけてください。

●海の体験コーナー

体験コーナーとは、海に関わりのあるいくつかのメニューの中から、毎回違った工作や実験などに挑戦していただく行事です。作り方や手順は、私たち体験学習指導員がわかりやすく説明するので、お子様から大人の方まで楽しく参加していただけます。

平成19年度から新メニューが追加されましたが、20年度もまた新しいメニューが登場します。興味のある方は、ぜひご参加ください。



体験コーナー新メニュー登場！

平成19年度から体験コーナーに新しいメニュー「オリジナルオブジェを作ろう」が加わり、早くもご好評をいただいています。

作り方はとても簡単。沖縄産の砂を敷きつめたシャーレの上に、貝殻・ウニの殻・魚のうろこ・ビーチグラスなどを並べてボンドで貼ります。

蓋をとめるビニールテープは11色を用意してあるので、完成した作品のイメージに合わせて好きな色を選ぶことができます。

どんな作品になるかはお客様しだい。皆様のご参加をお待ちしています。



素敵なオブジェができます！



「どれを使おうかな～」

2. 教育普及活動

海の博物館では、みなさまが海と触れあい、海に関する知識を深めてもらえるような、さまざまな教育普及活動を行っています。

(1) 観察会、講座、磯・いそ探検隊、博物館探検隊、タッチプール

平成 19 年度は観察会 7 回、講座 7 回、磯・いそ探検隊（フィールドトリップ: 当日申込みのミニ観察会）8 回、博物館探検隊（バックヤードツアー）14 回、タッチプールを 18 回行いました。また、こども会などの団体を対象としたフィールドトリップを 10 回実施しました。

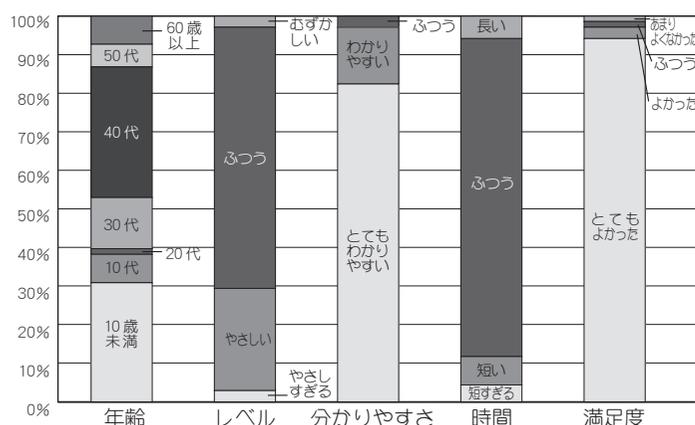
平成 19 年度実施一覧

●観察会

実施日	行事名	担当	参加者数
平成 19 年 4 月 29 日(日)	春の鵜原理想郷で植物を観察しよう	野口昭造氏 ¹⁾	3
平成 19 年 5 月 3 日(木)	海藻を観察しておしばを作ろう	菊地則雄	20
平成 19 年 5 月 5 日(土)	ウミウシを観察しよう	立川浩之	23
平成 19 年 6 月 17 日(日)	親子で磯の生きものを探そう	川瀬裕司	19
平成 19 年 7 月 29 日(日)	海辺にエビやカニを訪れる会	奥野淳兒	16
平成 19 年 8 月 19 日(日)	水中メガネで海の生きものを観察しよう	柳研介	22
平成 19 年 10 月 7 日(日)	秋の鵜原理想郷で植物を観察しよう	野口昭造氏 ¹⁾	7

¹⁾ 外部講師

アンケートの結果と参加者の声



- ・参加者の少ないことが非常にもったいないと思います。リピーターだけでなく、県内外の多くの方に積極的に来て頂けたらもっと良いのと思います。（「春の鵜原理想郷で植物を観察しよう」20代女性）
- ・おしばを海藻でつくってみて、花などとまたちがった作品をつくることができよかったです。（「海藻を観察しておしばを作ろう」小学生女性）
- ・身近な磯にこんなにたくさんの種類のウミウシの仲間が住んでいるとは知りませんでした。特に数ミリの小さなものは、言われなければ生きものだと思いませんでした。磯遊びの楽しみが増えました。とても面白かったです。また参加したいです。（「ウミウシを観察しよう」30代女性）

- ・小学生の観察会の回数を増やしてほしい。過去、学校の行事等で参加できないことがあった。（「海辺にエビやカニを訪れる会」40代男性）



観察会



講座

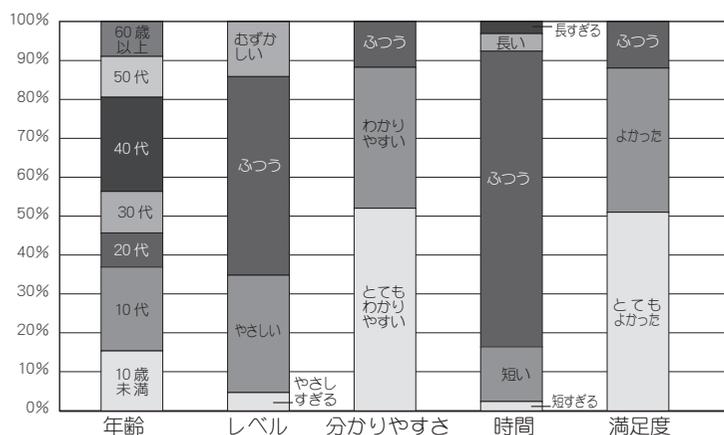


タッチプール

●講座

実施日	行事名	担当	参加者数
平成 19年 7月 28日(土)	海の生きもののオスとメス (2回)	村田明久	2
平成 19年 8月 5日(土)	親子で魚拓を作ってみよう	乃一哲久	9
平成 19年 8月 18日(土)	海の生きもの実験講座	村田明久	9
平成 19年 8月 26日(日)	南房総の海で繁殖する魚たち (2回)	川瀬裕司	51
平成 20年 3月 29日(土)	オスとメスの不思議	村田明久	7

アンケートの結果と参加者の声



- ・なかなか自宅では経験できない事なので、とても楽しかったです。子どもより自分が夢中になってしまいました。こちらの行事はいつもとても楽しく、また参加させていただきたい思います。(「親子で魚拓を作ってみよう」30代女性)
- ・またやりたい。(「親子で魚拓を作ってみよう」小学生男性)
- ・見たり聞いたりするだけではなく、実際に「実験」ができて楽しかった。(「海の生きもの実験講座」30代女性)
- ・夏休み調べ学習のために来館しましたが、親としては子どもと一緒に面白い海のお話の経験をさせていただきとても楽しかったです。(「南房総の海で繁殖する魚たち」40代女性)

●磯・いそ探検隊 (フィールドトリップ)、博物館探検隊 (バックヤードツアー)、タッチプール

磯・いそ探検隊

実施日	担当	参加者数
平成 19年 5月 4日(金)	川瀬裕司	17
平成 19年 5月 4日(金)	川瀬裕司	16
平成 19年 5月 4日(金)	川瀬裕司	21
平成 19年 7月 16日(月)	菊地則雄	11
平成 19年 7月 16日(月)	菊地則雄	20
平成 19年 8月 26日(日)	柳 研介	17
平成 19年 8月 28日(火)	柳 研介	17
平成 20年 3月 23日(日)	奥野淳兒	14

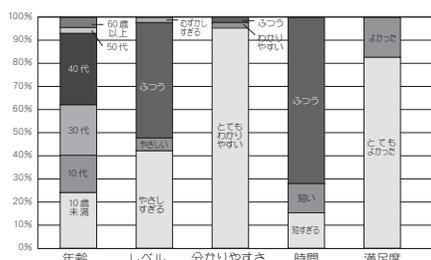
タッチプール

実施日	担当	参加者数
平成 19年 8月 14日(火)(6回)	柳 研介	72
平成 19年 8月 15日(水)(6回)	乃一哲久	73
平成 19年 8月 16日(木)(6回)	奥野淳兒	65

博物館探検隊

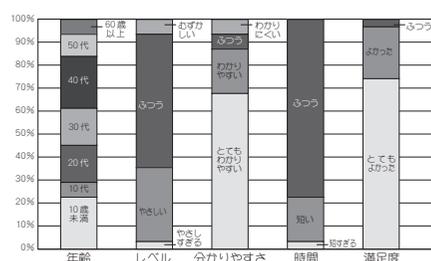
実施日	担当	参加者数
平成 19年 4月 28日(土)	菊地則雄	1
平成 19年 4月 28日(土)	菊地則雄	2
平成 19年 5月 6日(日)	柳 研介	10
平成 19年 5月 6日(日)	柳 研介	13
平成 19年 5月 6日(日)	柳 研介	14
平成 19年 7月 14日(土)	立川浩之	13
平成 19年 7月 14日(土)	立川浩之	15
平成 19年 7月 16日(日)	柳 研介	26
平成 19年 7月 16日(日)	柳 研介	22
平成 19年 7月 16日(日)	柳 研介	23
平成 19年 7月 16日(日)	柳 研介	24
平成 19年 7月 16日(日)	柳 研介	23
平成 19年 8月 11日(土)	立川浩之	17
平成 19年 8月 11日(土)	立川浩之	4

アンケートの結果と参加者の声



磯・いそ探検隊

- ・磯の海藻と生きものについてわかった。何年前か前、海藻調べをしたときに、この博物館を知っていればよかった。(磯・いそ探検隊40代女性)
- ・新しい発見があり、何気ない海が楽しく歩けそうです。子どもが海を好きになりました。(磯・いそ探検隊40代男性)
- ・いろいろ興味につきず、楽しく質問させてもらいました。標本作り、大型標本保管水槽のテクニック、アイデアはなかなかのモノだと感心しました。(博物館探検隊40代男性)



博物館探検隊

(2) 学校連携

●海の環境学習研修会

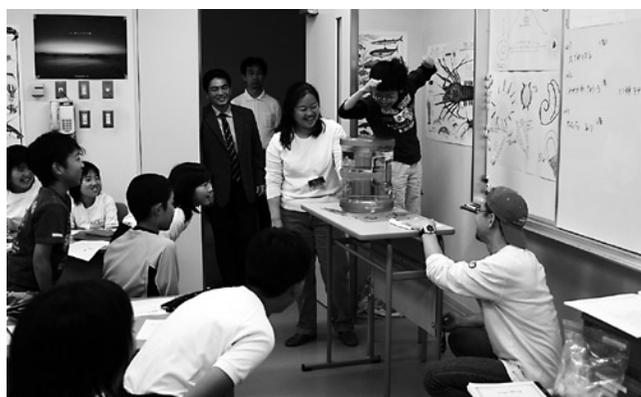
海の環境学習研修会は、千葉県総合教育センターとの共催事業として毎年実施している教員向け研修会です。平成19年度は、主に中学校・高校の教員23名を対象とし、7月31日、8月1日の2日間、主に磯の生きものの観察や同定、生きものの分布マップづくりなどを行いました。

●野外実習授業

野外実習授業は、学校教員と当館研究員が共同で磯観察などの校外学習を実施するものです。平成19年度は24件1,581名を対象に実施しました。このうち、5月30日の豊浜小学校の野外実習授業はNPO法人「海の自然史研究所」と協同して、MARE(Marine Activities, Resources and Education)プログラムを実施しました。MAREは、米国カリフォルニア大学パークレー校ローレンス科学教育研究所において開発・運営されている「海を学ぶ体験型科学教育カリキュラム」で、「海の自然史研究所」は、その日本での普及活動を行っている団体です。同研究所から2名のスタッフが来館され、プランクトンに焦点をあてた体験型プログラムを実施した後、野外でのプランクトン採集や採集されたプランクトンの観察などを行いました。

野外実習授業実施一覧

実施日	学校名	参加者数
平成19年5月15日(火)	目黒区興津健康学園	23
平成19年5月18日(金)	いすみ市立長者小学校	75
平成19年5月22日(火)	小金井市立第一小学校	124
平成19年5月25日(金)	勝浦市立清海小学校	29
平成19年5月30日(火)	勝浦市立豊浜小学校	36
平成19年5月31日(水)	小金井市立第四小学校	81
平成19年6月1日(金)	豊島区立竹岡健康学園	23
平成19年6月1日(金)	勝浦市立郁文小 いすみ市立千町小学校	119
平成19年6月5日(火)	小金井市立東小学校	87
平成19年6月7日(木)	大多喜町立西畑小学校	38
平成19年6月7日(木)	小金井市立前原小学校	103
平成19年6月14日(水)	勝浦市立豊浜小 大多喜町立西畑小学校	142
平成19年6月14日(水)	御宿町立御宿小学校	308
平成19年6月14日(水)	小金井市立第二小学校	85
平成19年6月18日(日)	勝浦市立行川小学校	47
平成19年7月1日(日)	千葉県立都賀小学校	70
平成19年7月12日(水)	市原市立牧園小学校	72
平成19年7月12日(水)	いすみ市立岬中学校	19
平成19年7月18日(火)	東海大浦安高校	30
平成19年7月31日(火)	いすみ市立岬中学校	12
平成19年8月2日(木)	県立実籾高校	8
平成19年8月13日(日)	埼玉県立深谷第一高等学校	7
平成19年10月11日(水)	目黒区立下目黒小学校	42
平成19年11月28日(火)	文京区立岩井学園	1



MAREプログラムを体験する豊浜小学校の児童



SPPのひとつま（海の博物館内での生きものの観察）

●県立長生高校とのサイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）の連携

SPPは、文部科学省が推進している「科学技術・理科大好きプラン」の一環として実施されている、学校と研究機関等との連携活動です。平成19年度は、当館研究員の川瀬を講師に、県立長生高校理科1年生30名を対象として、6月1日に長生高校での講義、7月28～30日に海の博物館で磯の生物相と垂直分布に関する実習を行いました。また、平成18年度のSPPで行った課題研究を1年間継続して行った飯尾直子さん、宮本迪佳さん、久我亮子さんのグループが、平成19年度千葉県科学作品展の科学論文部門で特別賞を受賞しました。

●職場体験

勝浦市内の小・中学校からの依頼により、職場体験を実施しました。合計5件、延べ27名の児童・生徒を対象に、展示解説や理想郷のモニタリング調査、飼育生物の世話など、様々な博物館の仕事を体験してもらいました。



一般来館者にクジラについての解説を行う勝浦市立北中学校の生徒



飼育室で飼育している生きものに餌やりをする勝浦市立清海小学校の児童

●展示解説・質問対応

野外実習授業以外にも随時研究員が展示解説やバックヤードの案内などを行っています。平成19年度は、21件1,132名を受け入れました。

(3) 団体対応

平成19年度は、学校の教員研修や公民館、教育委員会、各種サークルなどの団体を対象とした、磯の生きもの観察などの野外活動を、計10件346名を対象に実施しました。その他、研究員による展示解説やバックヤードの解説を、15件525名を対象に実施しました。

各種団体を対象とした野外活動

実施日	団体名	参加者数
平成19年 5月16日(※)	生涯大学校外学園	57
平成19年 5月19日(※)	いすみ理科同好会	18
平成19年 5月27日(※)	東金青年の家	116
平成19年 6月14日(※)	理科部会生物部海洋生物研究班	7
平成19年 7月8日(※)	千葉県稲毛記念館講座・観察会	46
平成19年 7月14日(※)	アースレンジャー Jr	27
平成19年 8月2日(※)	山武市教育委員会	32
平成19年 8月3日(※)	船橋市理科教員研修	17
平成19年 8月18日(※) 19日(※)	大多喜中学校教員研修	1
平成19年 9月9日(※)	勝浦市教育委員会	25

研究員による学校団体を対象とした展示解説

実施日	学校名	参加者数
平成19年 5月9日(※)	勝浦市立勝浦小学校	51
平成19年 5月12日(※)	大多喜町立大多喜西中学校	82
平成19年 5月15日(※)	大多喜町立大多喜小学校	32
平成19年 5月24日(※)	小金井市立緑小学校	113
平成19年 5月25日(※)	大多喜町立総元小学校	18
平成19年 5月29日(※)	勝浦市立郁文小学校	32
平成19年 6月1日(※)	勝浦市立総野小学校	41
平成19年 6月7日(※)	小金井市立前原小学校	103
平成19年 6月8日(※)	千葉市立松ヶ丘小学校	71
平成19年 6月12日(※)	勝浦市立勝浦小学校	58
平成19年 6月27日(※)	御宿町立御宿小学校	51
平成19年 6月29日(※)	茂原市立茂原小学校	64
平成19年 6月29日(※)	睦沢町立瑞沢小学校	20
平成19年 7月4日(※)	いすみ市立太東小学校	42
平成19年 7月5日(※)	鶴川市立大山・吉尾・主基小学校	51
平成19年 7月12日(※)	市原市立牧園小学校	82
平成19年 8月1日(※)	東京海洋大学	92
平成19年 8月23日(※)	千葉県立千葉高校	42
平成19年 8月31日(※)	東京大学分子細胞生物学研究所	16
平成19年 10月23日(※)	君津市立三島小学校	54
平成19年 10月23日(※)	いすみ市立千町小学校	17

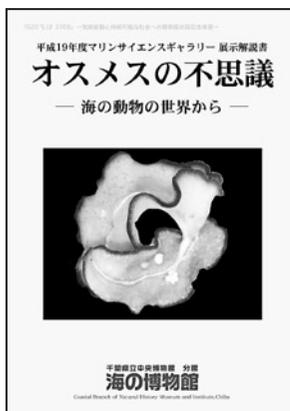


展示室での解説

(4) 広報

●刊行物

本誌「いそび通信」をはじめ平成19年度に発行した当館の刊行物を下の表にまとめました。



タイトル
千葉県立中央博物館分館海の博物館ニュースレター いそび通信 No.8 (平成18年度版)
合同巡回企画「くろしおと漁撈文化」リーフレット
合同巡回企画展示解説シート1「黒潮」
合同巡回企画展示解説シート2「漁撈の始まり」
合同巡回企画展示解説シート3「黒潮の漁業」
マリンサイエンスギャラリー「オスメスの不思議－海動物の世界から－」ポスター
マリンサイエンスギャラリー「オスメスの不思議－海動物の世界から－」リーフレット
マリンサイエンスギャラリー「オスメスの不思議－海動物の世界から－」展示解説書
マリンサイエンスギャラリーワークシート「オスメスクイズ」
海の生きもの観察ノート7「海辺の植物を観察しよう」
千葉県立中央博物館分館海の博物館 平成20年度行事案内

●ホームページ

ホームページで、海の博物館の展示内容や行事予定、調査研究活動の内容や収蔵資料などについて紹介しています。平成19年度は71,506件のアクセスがありました。

海の博物館のホームページ <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>

●メールマガジン

海の博物館メールマガジン「海からのたより」は毎月初めに発行されています。展示の更新情報、行事の案内や職員によるコラムなど盛りだくさんです。購読は無料です。千葉県立博物館メールマガジン登録のページ <https://blue.tricorn.net/chiba-muse/mbr1.x> にてお申し込みください。

(5) 館外での講演等

海の博物館研究員は、他機関からの依頼を受けて当館以外の場所でも講演や実技指導を行うことがあります。平成19年度は、下表のような活動を行いました。

実施日	団体名	内容	参加者数	担当
平成19年 8月21日	千葉そごう	そごうキッズアカデミーでの体験行事	54	乃一哲久、菊地則雄、柳研介
平成19年 9月11日	環境生活部自然保護課	三番瀬生物調査のアドバイザー	15	立川浩之
平成19年 10月13日	環境生活部自然保護課	三番瀬生物調査講演会講師・アドバイザー	15	柳研介
平成20年 3月 9日	浦安市郷土博物館	海藻観察会	13	菊地則雄



「そごうキッズアカデミー」でのひとこま。海の博物館展示室で行われている体験コーナーのメニュー「シラスを調べよう」と「海藻おしぼを作ろう」を千葉そごう9階「滝の広場」にて行いました。

(6) 報道機関取材一覧

取材日	取材元	誌名・番組名	内容	掲載・放送	担当者
平成 19 年 4 月 12 日	朝日新聞	ちばマリオン	海の博物館へ行こう（行事案内）	平成 19 年 4 月 16 日掲載	川瀬裕司
平成 19 年 4 月 19 日	NHK 首都圏放送センター		アサクサノリについて		菊地則雄
平成 19 年 5 月 16 日	NHK 教育	ミクロワールド	イソギンチャクの刺胞	平成 19 年 7 月 10 日放送	柳 研介
平成 19 年 5 月 25 日	読売新聞	読売新聞	ダイオウイカの標本搬入	平成 19 年 5 月 26 日掲載	柳 研介
平成 19 年 5 月 25 日	毎日新聞	毎日新聞	ダイオウイカの標本搬入	平成 19 年 5 月 26 日掲載	柳 研介
平成 19 年 5 月 25 日	産経新聞	産経新聞	ダイオウイカの標本搬入	平成 19 年 5 月 26 日掲載	柳 研介
平成 19 年 5 月 25 日	千葉日報	千葉日報	ダイオウイカの標本搬入	平成 19 年 5 月 26 日掲載	柳 研介
平成 19 年 7 月 16 日	千葉日報	千葉日報	カズハゴンドウの漂着	平成 19 年 7 月 17 日掲載	布留川毅
平成 19 年 7 月 16 日	千葉日報	千葉日報	ダイオウイカの一般公開	平成 19 年 7 月 31 日掲載	柳 研介
平成 19 年 7 月 16 日	千葉テレビ	千葉テレビ	ダイオウイカの一般公開	平成 19 年 7 月 16 日放送	柳 研介
平成 19 年 7 月 25 日	NHK 千葉放送局	F M ひるどき情報ちば	合同企画展示	平成 19 年 7 月 25 日放送	菊地則雄
平成 19 年 8 月 8 日	フジテレビ	報道局スーパーニュース	ホトトギスガイの写真提供		立川浩之
平成 19 年 8 月 31 日	TBS テレビ	ネプ理科	ブダイの咽頭歯資料提供	平成 19 年 9 月 22 日放送	乃一哲久
平成 19 年 9 月 7 日	日本テレビ	行列のできる法律相談所	カメノテの写真提供	平成 19 年 9 月 9 日放送	立川浩之
平成 19 年 10 月 13 日	テレビ東京	所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ!	ヒラメとカレイの違いについて解説	平成 19 年 10 月 11 日放送	乃一哲久
平成 19 年 11 月 30 日	読売新聞	読売新聞	成田空港の排水路へのサケの遡上		乃一哲久
平成 19 年 12 月 4 日	フジテレビ	とくダネ!	カニの「ふんどし」について	平成 19 年 12 月 14 日放送	奥野淳兒
平成 19 年 12 月 18 日	CBC テレビ	イッポウ	オオカマキリの写真提供	平成 19 年 12 月 18 日放送	菊地則雄
平成 20 年 2 月 13 日	こども放送局	こども放送局ニュース	アサクサノリについて	平成 20 年 3 月 1 日放送	菊地則雄
平成 20 年 2 月 22 日	千葉日報	千葉日報	マリンサイエンスギャラリーについて	平成 20 年 3 月 12 日掲載	村田明久
平成 20 年 3 月 7 日	NHK 千葉放送局	いっと 6 けん	マリンサイエンスギャラリーについて	平成 20 年 3 月 10 日放送	村田明久
平成 20 年 3 月 21 日	NHK 千葉放送局	F M ひるどき情報ちば	マリンサイエンスギャラリーについて	平成 20 年 3 月 21 日放送	村田明久

(7) 印刷物での海の博物館紹介一覧

取材日	出版元	誌名	内容	掲載
平成 19 年 4 月 1 日	千葉県	県民だより	行事案内	平成 19 年 7 月
平成 19 年 4 月 16 日	(有) ちばマガジン	ぐるっと千葉 6 月号	行事案内	平成 19 年 6 月
平成 19 年 7 月 27 日	(株) 角川クロスメディア	千葉ウォーカー	博物館の基本情報	平成 19 年 8 月
平成 19 年 7 月 31 日	昭文社	マップルマガジン千葉・房総 2008	博物館の基本情報	平成 19 年 10 月
平成 19 年 9 月 6 日	シティライフ (株)	シティライフ+	博物館の基本情報	平成 19 年 10 月
平成 19 年 9 月 30 日	メイツ出版 (株)	子どもとでかける千葉あそび場ガイド 2008 年版	博物館の基本情報	平成 19 年 12 月
平成 19 年 10 月 2 日	成美堂出版	東京・関東周辺 家族で遊ぶ 600 スポット' 08 ~ ' 09	博物館の基本情報	平成 20 年 1 月
平成 19 年 10 月 3 日	メイツ出版 (株)	親子で遊ぼう! 房総こだわり徹底ガイド	博物館の基本情報	平成 20 年 2 月
平成 19 年 10 月 11 日	千葉県	県民だより	行事案内	平成 20 年 2 月
平成 19 年 10 月 19 日	日本出版社	親子の遊び場ガイド 2008 首都圏版	博物館の基本情報	平成 20 年 2 月
平成 19 年 10 月 24 日	(有) タウネットワン	街かどたうねっと	博物館の基本情報	平成 19 年 11 月
平成 19 年 11 月 1 日	(株) ぴあ	テーマパーク&レジャーランドスーパーカタログ 2008	博物館の基本情報	平成 20 年 1 月
平成 19 年 11 月 9 日	近畿日本ツーリスト	旅行パンフレット	博物館の基本情報	平成 20 年 1 月
平成 20 年 1 月 10 日	東京湾フェリー (株)	南房総・三浦 平成 20 年度版	博物館の基本情報	平成 20 年 3 月
平成 20 年 1 月 31 日	昭文社	マップルマガジン「ベストドライブ関東' 09」	博物館の基本情報	平成 20 年 3 月
平成 20 年 2 月 1 日	(株) ジーニアスエデュケーション	さびあ	行事案内	平成 20 年 3 月

(8) 電子情報での海の博物館紹介一覧

取材日	取材元	掲載サイト名	内容	掲載
平成 19 年 5 月 10 日	(有) ちばマガジン	ぐるっと千葉ホームページ	施設の概要	平成 19 年 6 月 1 日
平成 19 年 7 月 6 日	JTB パブリッシング	旅行情報サイト「るるぶ.com」	施設の概要	平成 19 年 8 月 1 日
平成 19 年 7 月 15 日	環境省自然環境局	自然大好きクラブ	施設の概要と周辺の自然・行事案内	平成 19 年 8 月 1 日
平成 19 年 7 月 24 日	大学通信	マナビグート	施設の概要	平成 19 年 8 月 1 日
平成 19 年 10 月 9 日	(株) トヤマデータセンター	千葉情報ナビ impulse	施設の概要	平成 19 年 11 月 1 日
平成 19 年 10 月 19 日	メディア・リサーチ・センター (株)	雑誌新聞総カタログ 2008 年版	施設の概要	平成 20 年 3 月 31 日
平成 19 年 12 月 9 日	Dokka! お出かけ隊	Dokka! お出かけ隊	施設の概要	平成 20 年 1 月 1 日
平成 19 年 12 月 26 日	(株) エイブルシステムズ	観光見学施設データベース「サガデル」	施設の概要	平成 20 年 1 月 1 日
平成 20 年 2 月 3 日	Dokka! お出かけ隊	Dokka! お出かけ隊	クーポン券の発行	平成 20 年 2 月 19 日
平成 20 年 3 月 4 日	Dokka! お出かけ隊	Dokka! お出かけ隊	行事案内	平成 20 年 4 月 1 日

3. 資料収集活動

海の博物館では、千葉県周辺海域を中心に、海の自然誌に関する資料を収集しています。それらの資料は、県民共有の財産として保管、管理するとともに、展示や教育普及活動など、各種の博物館活動に活用しています。

(1) 職員による資料収集

海の博物館では、県内各地で海の自然誌に関する資料の収集を行っています。また、千葉県産資料との比較のために、県外地域においても同様の収集活動を行っています。

県外での資料収集は、平成18年度までの3年間は、親潮の影響下にある宮城県志津川湾沿岸において行っていましたが、平成19年度からは、調査地を石川県能登半島とし、今後3年間の予定で日本海産の資料を収集することになりました。平成19年9月27～30日に、立川、奥野、柳の3名の研究員が「のと海洋ふれあいセンター」の協力を得て、貝類やゴカイ類などを中心とする無脊椎動物を収集しました。日本海沿岸は干満差が小さく、磯での徒歩徒手採集が困難であったため、採集は主にスクーバ潜水によって行いました。



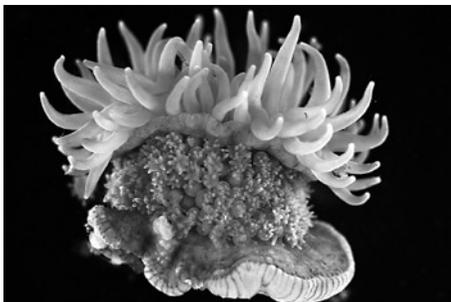
のと海洋ふれあいセンター



能登での潜水調査

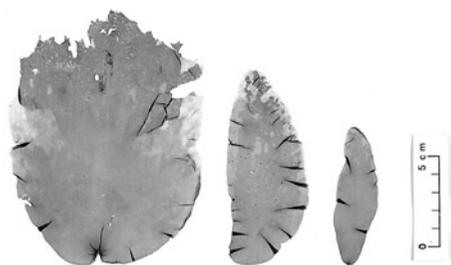
収集資料の紹介

石川県九十九湾のイソギンチャク



九十九湾で採集された *Epiactis* 属の1種と思われるイソギンチャク。体にたくさんの子個体を付けています。

一宮川河口のノリ



一宮川河口で採集されたノリの標本

県外での資料収集で訪れた九十九湾では、特筆すべきイソギンチャク類が2種類採集されました。1種類は「アンズイソギンチャク」と呼ばれるイソギンチャクで、分類学的にはとても興味深い種類です。また、もう1種類は、これまで日本では記録されていないグループの種で、おそらく *Epiactis* 属の1種であろうと考えられます。現在、これらの種の分類学的研究を進めているところです。

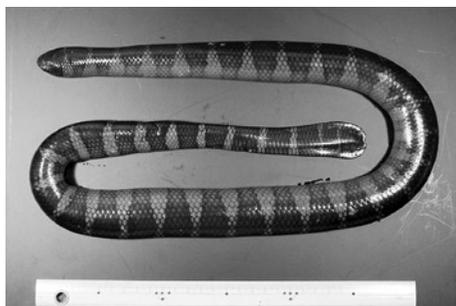
私たちが食べるノリは海藻のアマノリ属というグループに属する種類を指します。海の博物館では千葉県内に見られるアマノリ属の種類を調査していますが、外房の長生村で海に注ぐ一宮川の河口の脇にある潟湖で、種子植物のヨシに着くノリが見つかりました。このノリは形態や生育場所などから絶滅危惧種のアサクサノリである可能性が高いと考えられました。現在、DNA解析を行って、本当にアサクサノリかどうかを調べているところです。

(2) 提供資料の受入

平成 19 年度は、地元勝浦市の漁業者を中心とする 14 名の方から 25 件 40 点の資料を提供していただきました。内訳は、魚類が 14 点、甲殻類と海綿類が各 6 点、棘皮動物が 3 点、頭足類と蔓脚類が各 2 点、爬虫類、貝類、コケムシ類が各 1 点でした。皆様から提供していただく資料の中には、職員による収集活動だけでは手に入りにくいものも多くあり、ご協力に感謝しています。

提供資料の紹介

エラブウミヘビ



写真は、勝浦市串浜の海岸に打ち上げられていたエラブウミヘビです。新勝浦市漁業協同組合の鈴木昌一さんが発見し、勝浦水産事務所を通じて海の博物館に提供して頂きました。当館には冷凍状態で搬入されましたが、発見時には、まだ生きていたようです。本種は、本来、南西諸島以南を分布域としていましたが、最近では、九州や四国、本州の太平洋岸でも生息が確認されるようになってきているようです。おそらく、千葉県からは、初記録だと思われます。

ソウシカエルアンコウ



写真は、勝浦市鶴原の海岸に打ち上げられていたソウシカエルアンコウで、地元で漁業を営む海老根智央さんが発見し、届けてくれました。この仲間は、以前には「イザリウオ」と呼ばれていましたが、最近、「カエルアンコウ」に名称が変更されました。頂いた個体は、多少腐敗が進んでいましたが、全長が 30cm 近くもある立派なもので、当館には、これまで標本がなかった魚類です。すぐに腐敗の進行を止める処理をし、館資料として標本にしました。

(3) 資料登録点数

平成 19 年度は、新たに 1,670 点の資料を登録しました。これによって開館以来の登録点数は、54,625 点となりました。(平成 20 年 3 月 31 日現在)

資料名	本年度収集	累計
海綿動物	33	290
刺胞動物	246	4,843
環形動物	27	2,067
貝類	469	8,268
頭足類	3	233
甲殻類	95	2,250
棘皮動物	43	1,465
その他の無脊椎動物	7	307

資料名	本年度収集	累計
魚類	117	14,041
藻類	299	6,234
種子植物	0	63
写真資料	234	11,783
動画資料	61	1,064
図書資料	36	1,717
合計	1,670	54,625

(4) 資料の貸し出し

平成 19 年度は、研究用として 10 の機関に 652 点の標本を、展示用として 3 つの機関に 25 点の標本をそれぞれ貸し出しました。研究用は、鹿児島大学総合博物館、琉球大学理工学研究科などが主な貸し出し先で、標本の内訳は、イソギンチャク類が 1 点、サンゴ類が 19 点、甲殻類が 23 点、海綿類が 5 点、魚類が 610 点でした。展示用としては、萩博物館とアクアワールド茨城県大洗水族館に計 6 点の魚類標本を、大田区立郷土博物館に、19 点の海藻標本を貸し出しました。

4. 調査研究活動

海の博物館では、海の生きものに関する調査研究活動を積極的に行っています。そして得られた成果を論文などの形で公表し、学術分野に貢献するとともに、展示、教育普及活動で活用することによって、一般の皆様にも還元しています。

(1) 研究員による調査研究

海の博物館では、房総半島周辺海域の海洋生物相とその特徴を明らかにすることを目的に、各研究員が一体となって行う「総合分野」の研究と、各研究員の専門分野をより深く研究する「詳細分野」の研究の2つからなる調査研究活動を行っています。総合分野研究では魚類班、無脊椎動物班、藻類班の3班に分かれ、今年度は、特に千葉県北部の親潮影響域に重点を置いた調査研究を行いました。詳細分野研究は、各研究員が以下のようなテーマで行っています。

- 乃一哲久「沿岸域に出現する仔稚魚の形態と生態に関する研究」
- 川瀬裕司「モンガラカワハギ上科魚類の繁殖行動とその進化に関する研究」
- 立川浩之「日本産イシサンゴ類の分類・生物地理に関する研究」
- 菊地則雄「原始紅藻亜綱植物の分類学的、生態学的研究」
- 奥野淳兒「日本産共生性コエビ類の分類学的研究」
- 柳 研介「イソギンチャク類の分類学的研究」
- 村田明久「フジツボ類の繁殖生態」

(2) 他機関等との研究交流、外部助成金等

海の博物館独自で行う調査研究の他に、他機関の施設を利用したり、専門の異なる他機関の研究者と共同で行う研究や、外部助成金を得て行う研究も積極的に推進しています。平成19年度は以下のような共同研究や外部助成金を得ての研究を行いました。

のと海洋ふれあいセンターとの共同調査

研究課題：能登半島周辺海洋生物調査

当館の研究分担者：立川浩之・奥野淳兒・柳 研介

千葉大学海洋バイオシステム研究センター共同研究

研究課題：外房海域における非造礁性イシサンゴ類の分類学的研究

当館の研究分担者：立川浩之

独立行政法人国立科学博物館プロジェクト研究

研究課題：相模灘の生物相の起源研究

当館の研究分担者：立川浩之

独立行政法人海洋研究開発機構研究船淡青丸共同利用

研究課題：古伊豆・小笠原弧の生物相的要素に着目した相模湾産底生無脊椎動物の起源探求に関する研究

当館の研究分担者：立川浩之

広島大学生物生産学部練習船豊潮丸教育航海

研究課題：南西諸島海域の深海性プランクトン・ベントス・ネクトンの分布調査

当館の研究分担者：立川浩之

中華民国中央研究院生物多様性研究中心との共同研究

研究課題：台湾海域の深海性非造礁性イシサンゴ類の分類学的研究

当館の研究分担者：立川浩之

(3) 研究成果公表一覧

学術論文、学術書

布留川 毅

落合啓二・乃一哲久・布留川 毅・鈴木藤蔵. 2008. 千葉県南東部における哺乳類のロードキルの状況. 千葉中央博自然誌研究報告, 10(1): 21-26.

乃一哲久

Yano, K., M. Miya, M. Aizawa and T. Noichi. 2007. Some aspects of the biology of the goblin shark, *Mitsukurina owstoni*, collected from the Tokyo Submarine Canyon and adjacent waters, Japan. Ichthyol. Res., 54: 323-332.
落合啓二・乃一哲久・布留川 毅・鈴木藤蔵. 2008. 千葉県南東部における哺乳類のロードキルの状況. 千葉中央博自然誌研究報告, 10(1): 21-26.

川瀬裕司

飯尾直子・宮本迪佳・久我亮子・有原千香子・川瀬裕司. 2008. 千葉県勝浦の潮間帯におけるヒライソガニの体サイズと抱卵期. 千葉中央博自然誌研究報告, 10(1): 15-19.

立川浩之

Tachikawa, H. 2008. New records of azooxanthellate Scleractinia, *Labyrinthocyathus limatulus* (Squires) and *Dactylotrachus cervicornis* (Moseley) (Cnidaria: Anthozoa: Scleractinia: Caryophylliidae) from Japan. Nat. Hist Res., 10(1): 11-16.

奥野淳児・柳 研介・立川浩之. 2007. 千葉県勝浦市で採集されたムラサキニセツノヒラムシ (渦虫綱: 多岐腸目). 南紀生物, 49(1): 6-8.

Komai, T. and H. Tachikawa. 2007. New genus and species of axiid shrimp (Crustacea, Decapoda, Thalassinidea) from Japan. Bull. Natl. Mus Nat. Sci., Ser.A, 33(3): 113-126.

Komai, T. and H. Tachikawa. 2008. Thalassinidean shrimps (Crustacea: Decapoda) from the Ogasawara Islands, Japan. Nat. Hist Res., 10(1): 21-54.

菊地則雄

Zuccarello, G. C., J. A. West and N. Kikuchi. 2008. Phylogenetic relationships within the Stylonematales (Stylonematophyceae, Rhodophyta): biogeographic patterns do not apply to *Stylonema alsidii*. J. Phycol., 44: 384-393.

奥野淳児

奥野淳児・柳 研介・立川浩之. 2007. 千葉県勝浦市で採集されたムラサキニセツノヒラムシ (渦虫綱: 多岐腸目). 南紀生物, 49(1): 6-8.

Okuno, J. and S. Imazeki. 2008. Occurrence of *Periclimenes tenuirostris* Bruce, 1991 (Crustacea: Decapoda: Palaemonidae) in the northwestern Pacific, with description of its coloration in life and record of new host. Nat. Hist Res., 10(1): 17-20.

柳 研介

奥野淳児・柳 研介・立川浩之. 2007. 千葉県勝浦市で採集されたムラサキニセツノヒラムシ (渦虫綱: 多岐腸目). 南紀生物, 49(1): 6-8.

Fukunaga, Y., M. Kurahashi, K. Yanagi, A. Yokota, and S. Harayama. 2008. *Acanthopleuribacter pedis* gen. nov., sp. nov., a novel marine bacterium isolated from chiton, and description of Acanthopleuribacteraceae fam. nov., Acanthopleuribacterales ord. nov., Holophagaceae fam. nov., and Holophagae classis nov. in the phylum 'Acidobacteria'. International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, (in press)

鈴木孝男・内野敬・金谷弦・安野翔・佐藤正典・柳 研介・風呂田利夫. 2008. 芦崎の自然調査概要 7. 芦崎に生息する底生動物の群集組成. むつ市文化財調査報告, 36: 71-85.

柳 研介. 2008. 芦崎の自然調査概要 8. 芦崎のイソギンチャクについて. むつ市文化財調査報告, 36: 86-90.

教育普及業績

布留川 毅

布留川 毅. 2007. ちば水辺の生命 20 クロサギ. 読売新聞千葉版. 2007年9月2日.

布留川 毅. 2007. ちば水辺の生命 21 コシアカツバメ. 読売新聞千葉版. 2007年9月9日.

布留川 毅. 2007. ちば水辺の生命 24 イソヒヨドリ. 読売新聞千葉版. 2007年9月30日.

布留川 毅. 2007. 新年にあたって. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第31号.

布留川 毅. 2008. ちば水辺の生命 37 ウミウ. 読売新聞千葉版. 2007年1月20日.

乃一哲久

乃一哲久. 2007. 千葉県立安房博物館・千葉県立中央博物館分館海の博物館合同巡回企画 くろしおと漁撈文化展示解説シート1「黒潮」. 千葉県立中央博物館分館海の博物館.

乃一哲久. 2007. 千葉県立安房博物館・千葉県立中央博物館分館海の博物館合同巡回企画 くろしおと漁撈文化展示解説シート2「漁撈の始まり」. 千葉県立中央博物館分館海の博物館.

乃一哲久. 2007. 千葉県立安房博物館・千葉県立中央博物館分館海の博物館合同巡回企画 くろしおと漁撈文化展示解説シート3「黒潮の漁業」. 千葉県立中央博物館分館海の博物館.

乃一哲久. 2007. 海の博物館とイノシシ. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第28号.

乃一哲久. 2008. アライグマ北上中? . 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第35号.

川瀬裕司

川瀬裕司. 2007. マリタイムシネマ制作秘話. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第29号.

川瀬裕司. 2008. 性別ってどのように決まる? ~ヒトの場合~. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第36号.

立川浩之

- 立川浩之. 2007. 非造礁性イシサンゴのなかま. In 和歌山県立自然博物館(編), 第25回特別展「刺胞動物展」解説書「刺胞を持つ動物サンゴやクラゲのふしぎ大発見」. pp. 21-22. 和歌山県立自然博物館.
- 立川浩之. 2007. マッコウクジラの下顎骨. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第30号.
- 立川浩之. 2008. サンゴのお話. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第37号.

菊地則雄

- 菊地則雄. 2007. 藻のグラフィックアート 日本のアマノリ属. 藻類. 55, 2 pp.
- 菊地則雄. 2007. 地球温暖化と海藻. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第31号.
- 菊地則雄. 2007. ちば水辺の生命 34 アサクサノリ. 読売新聞千葉版. 2007年12月23日.
- 菊地則雄. 2008. ちば水辺の生命 40 ヒジキ. 読売新聞千葉版. 2008年2月17日.

奥野淳兒

- 奥野淳兒. 2007. ヒラムシの標本収集. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第32号.
- 奥野淳兒. 2007. 海辺のワラジムシ. 友の会ニュース(千葉県立中央博物館友の会). (62): 6.

柳 研介

- 柳 研介. 2007. 刺胞発射の仕組み; 六放サンゴとイソギンチャク; イソギンチャクの七変化. In 和歌山県立自然博物館(編), 第25回特別展「刺胞動物展」解説書「刺胞を持つ動物サンゴやクラゲのふしぎ大発見」. pp. 8-9; 18-19; 44. 和歌山県立自然博物館.
- 柳 研介. 2007. 春は別れの季節. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第26号.
- 柳 研介. 2007. ホウザワイソギンチャクとの出会い. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第33号.
- 柳 研介. 2008. イソギンチャクに背腹はある?. 友の会ニュース(千葉県立中央博物館友の会). (63): 6.

村田明久

- 村田明久. 2007. フジツボの脚. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第27号.
- 村田明久. 2007. 雌雄同体のフジツボのお相手の数. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」. 第34号.
- 村田明久. 2008. 平成19年度マリンサイエンスギャラリー展示解説書「オスメスの不思議-海の動物の世界から-」. 12 pp. 千葉県立中央博物館分館海の博物館.
- 村田明久. 2008. 平成19年度マリンサイエンスギャラリー「オスメスの不思議-海の動物の世界から-」ワークシート「オスメスクイズ」. 千葉県立中央博物館分館海の博物館.

学会発表

川瀬裕司

- 川瀬裕司. 2007.10. 自然史博物館におけるビデオ映像の整理・

保管および活用-現状と課題. 日本魚類学会年会. 北海道大学, 札幌市.

- 川瀬裕司. 2008.1. 科学的探究プロセスを重視したSPPの実践-磯生物の生態を課題研究として. 日本生物教育学会全国大会. 2008年1月27日. 名城大学, 名古屋市.

立川浩之

- 立川浩之. 2007.10. 日本産“非造礁性”イシサンゴ類について. 第3回日本刺胞動物等研究談話会. 黒潮生物研究所, 高知県大月町.

- Lin, M.-F., H. Tachikawa, S.-M. Chao, K.-S. Lee and C. A. Chen. 2008.1. Geographic distribution and biodiversity of deep-sea azooxanthellate corals (Hexacorallia, Anthozoa, Cnidaria) in Taiwan. 2008 annual meeting, Taiwanese Coral Reef Society. Taipei, Taiwan.

菊地則雄

- 阿部真比古・藤吉栄次・菊地則雄・玉城泉也・小林正裕. 2007.9. 広島県呉市大谷川・黒瀬川における絶滅危惧種アサクサノリの生育の可能性. 平成19年度日本水産学会秋季大会. 北海道大学, 函館市.

- 藤吉栄次・菊地則雄. 2007.9. 岩手県山田町産マルバアサクサノリ葉状体の生長におよぼす光周期の影響. 平成19年度日本水産学会秋季大会. 北海道大学, 函館市.

- 藤吉栄次・小林正裕・玉城泉也・阿部真比古・吉田吾郎・菊地則雄・杉野博之・安江浩・伊藤龍星. 2007.11. 瀬戸内海における希少アマノリ類の調査 その1. 平成19年度瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議生産環境部会藻類情報交換会. ホテルチューリッヒ東方2001, 広島市.

- 阿部真比古・小林正裕・玉城泉也・藤吉栄次・菊地則雄. 2007.11. 広島県・大分県における絶滅危惧種アサクサノリの生育について. 平成19年度瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議生産環境部会藻類情報交換会. ホテルチューリッヒ東方2001, 広島市.

- 菊地則雄・申宗岩. 2008.3. 紅藻ホシノオビの分類学的再検討. 日本藻類学会第32回大会. 東京海洋大学, 東京.

奥野淳兒

- 奥野淳兒. 2007. 6. *Cuapetes* A. H. Clark, 1919 の復活ならびに琉球列島産同属エビ類の1新記録種と1未記載種. 日本動物分類学会第43回大会. 北九州市立自然史・歴史博物館, 北九州市.

- 奥野淳兒. 2007. 10. 日本初記録となるオトヒメエビ科とテナガエビ科の“*tenuirostris*”. 日本甲殻類学会第45回大会. 東京海洋大学, 東京.

柳 研介

- 柳 研介. 2007.6. ドフラインの採集したイソギンチャク類標本について. 2007年日本動物分類学会第43回大会. 北九州市立自然史・歴史博物館, 北九州市.

- 柳 研介・鈴木孝男・佐藤正典・内野敬・五十嵐健志. 2007.9. 陸奥湾芦崎干潟で発見されたホウザワイソギンチャク *Synandwakia hozawai* (花虫綱: イソギンチャク目) について. 2007年度日本ベントス学会・プランクトン学会合同大会. 横浜市立大学, 横浜市.

(4) 館外活動

海の博物館の研究員は、その専門性を活かして他機関等からの依頼により、外部委員を務めたり、講義などを行っています。平成19年度は、川瀬が日本魚類学会電子情報委員会委員長を、奥野が日本動物分類学会選挙管理委員会委員長を務めました。

台湾での標本調査

当館研究員の立川は、台湾中央研究院生物多様性研究センターとの共同研究のため去る12月8日から12月23日まで台湾を訪問し、台北市の中央研究院と台中市の国立自然科学博物館において深海性イシサンゴ類の標本調査に行ってきました。台湾には深海性イシサンゴ類の分類の専門家がいいため、博物館等に保存されているこのなかまの標本は種名がほとんど調べられていませんでした。今回の調査により台湾からの初記録22種を含む25種のイシサンゴ類の名前が明らかになり、1月に行われた台湾サンゴ礁学会年次大会で結果が報告されました。今回得られた結果は、千葉県沖を含む日本産の深海性イシサンゴ類の分類や分布を考えるうえでも有効な知見になりました。



台湾国立自然科学博物館にて台湾の研究者たちと

施設管理の仕事

海の博物館では、施設の管理、すなわち警備、清掃、設備管理の仕事を、それぞれ専門の業者の方々がを行っています。

警備担当は、昨今増加している様々な事件が間違っても海の博物館で起こらないよう、夜も泊まり込みで警備にあたっています。また、ロビー受付業務も行っており、お客さまからの様々な質問や要望に対して的確な案内をするよう努めるとともに、お客さまが最も頻繁に出入りする展示室の警備も兼ねています。

清掃担当は、お客さまに快く博物館やその周辺を利用していただけるよう、展示室など建物の中はもちろんのこと、博物館周辺の道路の方まで、清掃をしています。博物館周辺は、夏には草ぼうぼうになるため、定期的に草刈りも行っています。

海の博物館は海の生きものを飼育するための海水設備や収蔵庫の空調設備など、故障の許されない（故障は生きものの死滅や標本が台無しになることにつながりかねない）独特の機械設備を持っています。設備管理担当は、これらを始め、博物館内の様々な設備を管理するとともに、故障の際には修理をすることもあります。また、生きものの水槽の管理の一部も担当しています。

これらは、博物館の仕事として大きく取り上げられることはほとんどありませんが、博物館を運営していく上では欠くことのできない大切なものです。これらの仕事が的確に行われていることで、博物館の中心の活動である、展示、教育普及、資料収集、調査研究の諸活動が成り立つとも言えるでしょう。



左から、それぞれ警備、受付（左は料金徴収員）、清掃、設備管理の仕事の様子

5. 事務室から

(1) 平成 19 年度の利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開館日数	26	26	26	25	31	26	26	26	22	25	25	26	310
入館者数	5,600	9,049	5,535	6,075	17,243	5,786	4,995	4,140	2,740	5,124	4,303	7,055	77,645
個人	5,524	7,476	3,618	4,974	16,627	5,631	4,230	3,943	2,602	5,055	4,112	6,723	70,515
団体	76	1,573	1,917	1,101	616	155	765	197	138	69	191	332	7,130
学校団体件数	0	13	21	13	5	0	4	0	0	1	0	0	57

(2) 平成 19 年度の臨時開館・休館

千葉県は、毎週月曜日（休日の場合はその翌日）と年末・年始を定期休館日としています。海の博物館では、右表のとおり利用者が集中するゴールデンウィーク、夏休み期間中の定期休館日および年末・年始に臨時開館しました。

施設のメンテナンス作業などのため、5月8日、12月18～19日、1月8日、1月16日を臨時休館日としました。

臨時開館日	入場者数
平成 19 年 5 月 1 日(火)	375
平成 19 年 8 月 6 日(月)	492
平成 19 年 8 月 13 日(月)	791
平成 19 年 8 月 20 日(月)	442
平成 19 年 8 月 27 日(月)	419
平成 19 年 12 月 28 日(金)	185
平成 20 年 1 月 2 日(水)	606
平成 20 年 1 月 3 日(木)	686
平成 20 年 1 月 4 日(金)	540
平成 20 年 1 月 7 日(月)	145
計	4,681

(3) 安心情報

海の博物館では、7月よりAED（除細動器）を導入し、研修会を開催しました。また、10月25日に火災発生時の避難および消火器・消火栓の取扱訓練を行いました。1月23日には、勝浦海中公園センターと合同で、津波発生時の避難訓練を行いました。津波発生時の避難訓練では、前年度は避難完了まで22分かかってしまったため、避難方法や確認方法を再検討し実施したところ、今年度は9分で避難を完了することができました。今後も避難訓練を実施し、お客様の安全に心がけたいと思います。



AED講習会の様子。心臓マッサージは、結構、体力がいります！



津波時の避難訓練。「津波」の旗を持って、海岸にいる人に注意を促しに行きます。

(4) 博物館への手紙

「博物館への手紙」は、来館者のみなさまからのご意見や要望、ご質問などをお寄せいただく窓口です。展示ロビーに用紙と投函箱が備えてありますので、ご来館の時はぜひご意見をお寄せください。

- ・ホシザメのざらざらがこわかったです。マンボウがすごかったです。(9歳女性)
- ・ダイダイウミウシを42ひきみつけました(7歳男性)
- ・ふだん海に行っても見ることの出来ないものが多く大変参考になりました。海が浄化されきれいな事の証明のような気がします(71歳男性)
- ・小学校2年せいです。こう外学習できました。そのときは、ぜんぶけん学できなかったので、かぞくできました。(7歳女性)
- ・ぜひ、またイッカクの展示をしてください。(26歳女性)
- ・アシナガモエビモドキがなかなか見つかりませんでした。ほかのさかなや生きものはみつかりました(7歳女性)
- ・私はきのうハゼのしたいをみつけました。博物館にいたのとおなじでびっくりしました。ハゼはちょっとざらざらしていてぶつぶつがあり(黒い)おもしろいもようでした。(9歳女性)
- ・おもしろかったです。顕微鏡で見たやつは気持ち悪かった。(22歳女性)
- ・すなの中に小さいかいがあつてとても、びっくりしました(7歳女性)
- ・身近な貝(海辺に落ちている)がたくさんあって良い。展示の量をもっと増やしてほしい。(42歳男性)
- ・海の博物館に来る前に海中公園にある海へにごみがいっぱいありました。今、いっぱい
- 貝などがなくなっているのかなあと思いました。(10歳男性)
- ・リカちゃんがかんじられていたけど、へんな虫?みたいなものがまつわりついていてキモチワルイです。(10代女性)
- ※これは「衣服にくつつくタネ」の展示で、リカちゃん についていたのは植物のタネです。
- ・ヘイケガニをはじめて見ました。ちょっとこわい顔でした。歴史でヘイケガニはノロイのカニと学び少しこわかったです。(11歳女性)
- ・とても楽しい所でした。わたしも毎日きたいです。とくに、クジラのほねがものすごく大きかったのでおどろきました。よかったらお返じください。(9歳女性)
- ・海中展望等で見える魚の名前をその日その日で紹介した方が良く分かります。魚の名前が分からないと楽しさ半減です。(15歳男性)
- ※展望塔を運営する勝浦海中公園にお伝えしました。
- ・同行者に小学生の子供でも連れてきたらよかったですと思います。共に学ぶ(質問されたり、したりすることで)と面白いと思いました。(76歳女性)
- ・淡水魚の特集をしてほしい。(12歳男性)
- ・しりょうなど大変わかりやすいのですが、もう少し魚のはくせいやビデオがあればいいと思います。後は、おみやげなど売ったりしてくれれば文句はありません。(9歳女性)
- ・だいすき。(5歳女性)

平成 20 年度の行事案内

(1) 平成 20 年度マリンサイエンスギャラリー

東洋のガラパゴス
—小笠原諸島の海の生きもの—
 平成 21 年 2 月 21 日 (土) ~ 5 月 6 日 (水・休)

小笠原諸島は、房総半島のはるか南の海上に浮かぶ、ほかの陸地と一度もつながったことのない亜熱帯の島々です。小笠原諸島にすむ生きものたちの祖先は、さまざまな手段でこの島々にたどり着き、独自の進化をとげてきました。特に陸の生きものは、ここでしか見られない固有種と呼ばれる種類が多いことで有名ですが、海の中の生きものたちにもなかなか個性的な顔ぶれがそろっています。平成 20 年度マリンサイエンスギャラリー「東洋のガラパゴス—小笠原諸島の海の生きもの—」では、小笠原諸島の海に住むさまざまな生きものたちを、千葉県海の生きものと比べてご紹介いたします。



小笠原の海を泳ぐオビシメ

*マリンサイエンスギャラリーは、毎年異なったテーマで海の生きものを深く掘り下げて紹介する企画展示です。

(2) 収蔵資料展

海辺の鳥たち
～豊かな房総の海に舞う～
 平成 20 年 7 月 5 日 (土) ~ 9 月 15 日 (月・祝)

千葉県の海は砂浜海岸や岩石海岸、干潟など多様な環境があります。そんな多彩な房総の海に生息する様々な鳥を標本や写真を中心に紹介します。房総の海の豊かさをたくさんの方を通して感じとってください。



海岸で休むクロサギ

(3) 観察会・講座

観察会

実施日	時間	タイトル	内容	定員	対象
平成 20 年 4 月 27 日(日)	10:00 ~ 15:00	春の鵜原理想郷で植物を観察しよう	鵜原理想郷は風光明媚な岬です。景色を楽しみながら、春の植物を観察しましょう。	15	一般
平成 20 年 5 月 5 日(月・祝)	9:30 ~ 11:30	親子で磯の生きものを探そう 1	たくさん生きものがくらす磯は、生きものとふれあう絶好の場所です。どんな生きものが見つかるかな？	20	小学生と保護者
平成 20 年 5 月 6 日(火・休)	10:00 ~ 15:00	ウミウシを観察しよう	海の博物館の前の磯で、カラフルなウミウシを探して観察してみましょう。	20	小学生以上 (小学生は保護者同伴)
平成 20 年 6 月 7 日(土)	12:00 ~ 14:00	親子で磯の生きものを探そう 2	たくさん生きものがくらす磯は、生きものとふれあう絶好の場所です。どんな生きものが見つかるかな？	20	小学生と保護者
平成 20 年 7 月 5 日(土)	11:00 ~ 13:00	海辺にエビ・カニを訪れる会	潮だまりで見られるエビやカニなどの甲殻類を観察します。	20	小学生以上 (小学生は保護者同伴)
平成 20 年 7 月 19 日(土)	10:30 ~ 12:30	親子で魚を観察しよう	海の博物館の前の海岸で、親子で魚を採集して、観察します。	20	小学生と保護者
平成 20 年 7 月 27 日(日)	9:30 ~ 12:00	水中メガネで海の生きものを観察しよう	水中メガネの使い方などを練習した後、海の中の生きものを観察します。	20	小学生以上 (小学生は保護者同伴)
平成 20 年 8 月 24 日(日)	10:00 ~ 12:00	鵜原理想郷で海辺の野鳥を観察しよう	鵜原理想郷で見られる海辺の野鳥を観察します。	20	中学生以上
平成 20 年 10 月 5 日(日)	10:00 ~ 15:00	秋の鵜原理想郷で植物を観察しよう	鵜原理想郷は風光明媚な岬です。景色を楽しみながら、秋の植物を観察しましょう。	15	一般
平成 21 年 3 月 14 日(土)	11:00 ~ 13:30	海藻を観察しよう	海の博物館の前の磯で見られる海藻を探して、観察します。	20	中学生以上

講座

実施日	時間	タイトル	内容	定員	対象
平成 20 年 7 月 5 日(土)	13:30 ~ 15:30	海辺の鳥たち	収蔵資料展「海辺の鳥たち」を見ながら、房総半島で見られる海辺の野鳥を紹介します。	20	中学生以上
平成 21 年 3 月 15 日(日) 平成 21 年 3 月 22 日(日) 平成 21 年 3 月 29 日(日)	13:30 ~ 15:30	東洋のガラパゴス—小笠原諸島の海の生きもの	マリンサイエンスギャラリーに合わせて、小笠原諸島の海の生きものについて詳しく紹介します (各日とも同じ内容です)。	20	一般

(4) 磯・いそ探検隊、博物館探検隊、タッチプール

磯・いそ探検隊

実施日	時間	定員
平成20年 4月 6日(日)	10:00～11:00	15
平成20年 5月 4日(日)・(祝)	9:30～10:00、10:15～10:45	15
平成20年 7月 20日(日)	11:00～12:00	各15
平成20年 7月 21日(日)・(祝)	11:30～12:30	15
平成20年 8月 16日(土)	9:30～10:30、10:45～11:45	各15
平成20年 8月 17日(日)	9:30～10:30、10:45～11:45	各15
平成20年 8月 30日(土)	10:00～11:00	15
平成21年 3月 28日(土)	11:00～12:00	15
平成21年 3月 29日(日)	11:00～12:00	15

博物館探検隊

実施日	時間	定員
平成20年 5月 3日(土)・(祝)	11:00～11:30、13:30～14:00	各15
平成20年 11月 3日(日)・(祝)	11:00～11:30、13:30～14:00	各15

タッチプール

実施日	時間	定員
平成20年 8月 12日(火)	11:00～、11:30～、13:00～、13:30～	各10
平成20年 8月 13日(水)	11:00～、11:30～、13:00～、13:30～	各10
平成20年 8月 14日(木)	11:00～、11:30～、13:00～、13:30～	各10

(5) みんなで工作 海の生きもの

各日とも13:30～14:15と15:00～15:45の1日2回です。定員は各回15名です。メニュー等はお問い合わせください。

平成20年 7月 12日(土)	平成20年 8月 8日(金)
平成20年 7月 26日(土)	平成20年 8月 20日(火)
平成20年 8月 5日(火)	平成20年 8月 26日(火)

(6) 海の体験コーナー

各日とも11:00からと13:30からの1日2回、約20分間です。メニュー等はお問い合わせください。

4月 5日(土)	19日(土)	11月 8日(土)	22日(土)
5月 17日(土)	31日(土)	12月 6日(土)	20日(土)
6月 14日(土)	28日(土)	1月 10日(土)	24日(土)
9月 13日(土)	27日(土)	2月 7日(土)	21日(土)
10月 11日(土)	25日(土)	3月 7日(土)	21日(土)

お申し込み方法

観察会と講座

ひとつの行事ごとに 1. 住所、2. 氏名、3. 電話番号、4. 年齢、5. ご希望の行事名を明記の上、ハガキまたはFAXにて、行事開催日の二週間前までに海の博物館あてにお申し込みください（ロビー受付でもお申し込みいただけます）。なお、お申し込み多数の場合には抽選とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。また、定員に満たない場合は、締切後でも受け付けを行いますので、お問い合わせください。

磯・いそ探検隊、博物館探検隊、タッチプール、みんなで工作 海の生きもの

当日先着順に受け付けます。開始時刻の10分前までにロビーの受付で手続きを済ませてください。なお、定員となりしだい受け付けを締め切らせていただきますので、ご了承ください。

海の体験コーナー

定刻になりましたら、展示室体験カウンター前にお集まりください。なお、定員はすべて6名で、定員を超えた場合はその場で抽選となりますので、ご了承ください。

(7) 海の環境学習研修会

学校の先生を対象とした研修会です。平成20年度も、県総合教育センターとの共催で行います。日程は、7月31日（木）と8月1日（金）の2日間、定員20名で、主に小・中学校において海の自然を題材とした活動を行う際に参考となる研修内容を実施する予定です。申込み、詳細については、総合教育センターの研修案内をご参照ください。ご参加をお待ちしています。

海の博物館 ご利用の案内

開館時間 9:00～16:30（入館は16:00まで）

休館日 毎週月曜日（ただし月曜日が休日にあたる場合は翌日です）*その他に臨時開館・休館があります。

入場料 一般：200円 高校・大学生：100円 中学生以下、65歳以上：無料 *団体割引等あり
身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方（手帳提示）とその介護者：無料

駐車場 8:30～17:15（年中無休、入車は16:15まで）

駐車料金 普通車 2時間まで200円、以後1時間ごとに100円 中・大型車 2時間まで600円、以後1時間ごとに300円

交通 *電車・バスをご利用の場合

- ・JR外房線 鵜原駅から徒歩15分、勝浦駅からタクシーで約10分
- ・JR外房線 勝浦駅から小湊鉄道バス「興津経由松野」行き「吉尾入口」下車、徒歩12分
- ・JR外房線 勝浦駅から小湊鉄道バス「海中公園・海の博物館」行き終点下車、徒歩0分（土・日曜日・祝日のみ）
- *自家用車をご利用の場合
- ・千葉市からR16(市原)、R297(大多喜)、R128(勝浦)を通過して約2時間
- ・東京湾アクアラインから圏央道、R410、R409(牛久)、R297(大多喜)、R128(勝浦)を通過して約1時間半
- ・館山市からR128(鴨川)を通過して約1時間半
- ・銚子市からR126(東金)、R128(勝浦)を通過して約3時間

職員から



今年度は学校がたくさん利用してくれました。さらにたくさんの子どもに千葉県の海をよく知ってもらい、千葉県の海の生きもののおもしろさを体感し、そして千葉県がいかに海の恩恵に浴しているかに気づいて欲しいと思います。

20年度末には海の博物館はついに開館10周年を迎えます。海の博物館は、世界に誇る千葉県が築きあげてきた海の生物についての知の財産です。さらに県民の知的好奇心に応え、喜ばれる施設となるようにしていきたいと思っています。(布留川)

海の博物館も開館10年目を迎えようとしております。今年は危機管理および施設整備に力を入れ、安全で安心な博物館を目指します。また、企画展示や観察会を開催しておりますので、県民の皆様のお役に立てたら幸いです。(石田)

海の博物館に勤務し1年が経ちましたが、まだまだ覚えることも多く勉強の毎日です。千葉県を象徴するような豊かな自然に囲まれた海の博物館にぜひお越しください。(沖村)

この度、転勤することになりました。思い起こせば、採用されて以来の14年間を海の博物館とともに歩んできました。この間には、博物館を造ることに始まり、施設の維持管理、運営、そして各種の博物館活動を通して利用者の皆様や地域の方々と交流していくことなど、博物館の「いろは」全てを学ばせて頂いたと感謝しています。皆様、本当にありがとうございました。(乃一)

来年度から海博でもボランティア制度を導入するため、いろいろな準備を進めてきました。たくさんの方が活躍できる場となれば幸いです。(川瀬)

共同研究で訪問した台湾では、現地の皆さんに大変お世話になり、大変充実した標本調査を行うことが出来ました。謝謝！(立川)

海の博物館ができた頃、姿も形もなかった自分の子どもが小学生になります。その間、海博も成長できたでしょうか？彼女の子ども(私の孫!?)を海博の行事に参加させる夢がかないますよう。(菊地)

図鑑や論文でしか知らなかった生きものに初めて出会えてその動きや質感を味わえることは、私にとって何物にも変えがたい喜びです。今年度は、ヒラムシとワラジムシでそのような種類に出会い、感激しました。(奥野)

今年度は海に潜ることがほとんどありませんでした。残念・・・。(柳)

今年度はマリンサイエンスギャラリーを担当しました。まだまだ力不足。ご協力いただいた皆様に感謝します。(村田)

今年度から「磯・いそ探検隊」に参加することになりました。磯で生きものと触れ合うのは楽しいものだ、改めて感じています。(山岸)

海の博物館に来て1年、まだまだ勉強不足を実感しています。さらに魅力ある海博にしていきたいです。(芳賀)

職員の異動

平成19年4月1日

布留川 毅 (分館長) 転入 (大多喜町立西中学校)
沖村 仁 (主任主事) 転入 (千葉県立京葉高等学校)
芳賀智恵美 (体験学習指導員) 新規採用

平成20年3月31日

乃一 哲久 (上席研究員) 転出 (千葉県立中央博物館)
川瀬 裕司 (上席研究員) 転出 (千葉県立中央博物館：環境生活部自然保護課併任)

ちび

平成19年度 千葉県立中央博物館分館海の博物館 ニュースレター「いそび通信」No.9 平成20年6月1日発行

編集・発行 千葉県立中央博物館分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123 電話 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821

e-mail: umihaku@chiba-muse.or.jp URL: <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>